

13 底釣り3 両グルテンの底釣り(秋～春)

気温・水温が低下し魚の活性が鈍くなる季節は、エサを投入してからアタリが出るまで時間がかかるようになります。そのため、寄せながら待ってハリ残りがよいグルテンエサが有効になります。



タナをずらしましょう

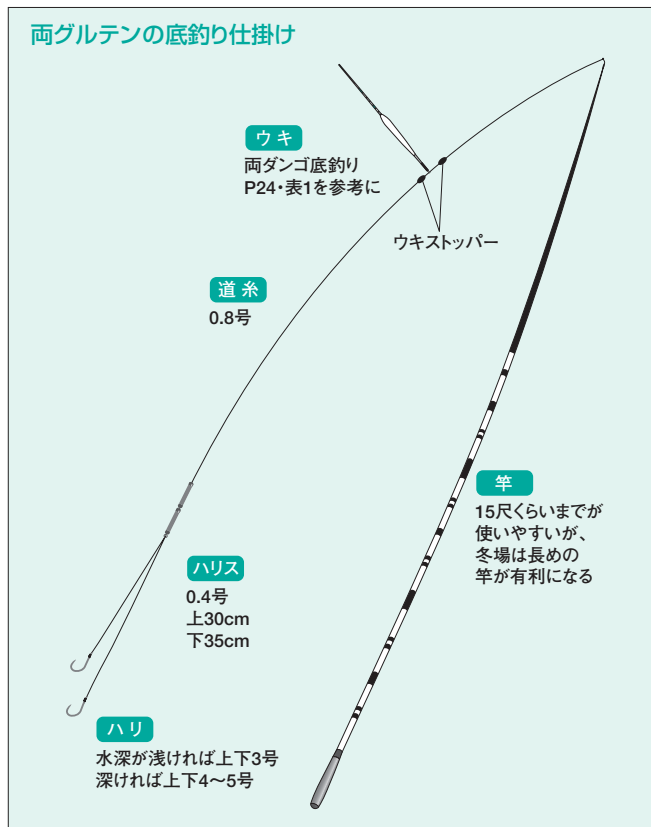
両グルテンの底釣りの手順は両ダンゴの底釣りの場合と同じですが、エサの安定を考えるとタナは最初からずらしておくのがポイントです。

グルテンは軽いので、上バリトントンのタナではへら鮒が寄るとその勢いでエサが底から舞い上がってしまいます。そこで、エサを底に安定させる意味から、底ギリギリに着いている上バリを3～5cm、ウキをトンボに近づけてタナをずらします。また、なじみ幅もその分小さくなるので注意しましょう。

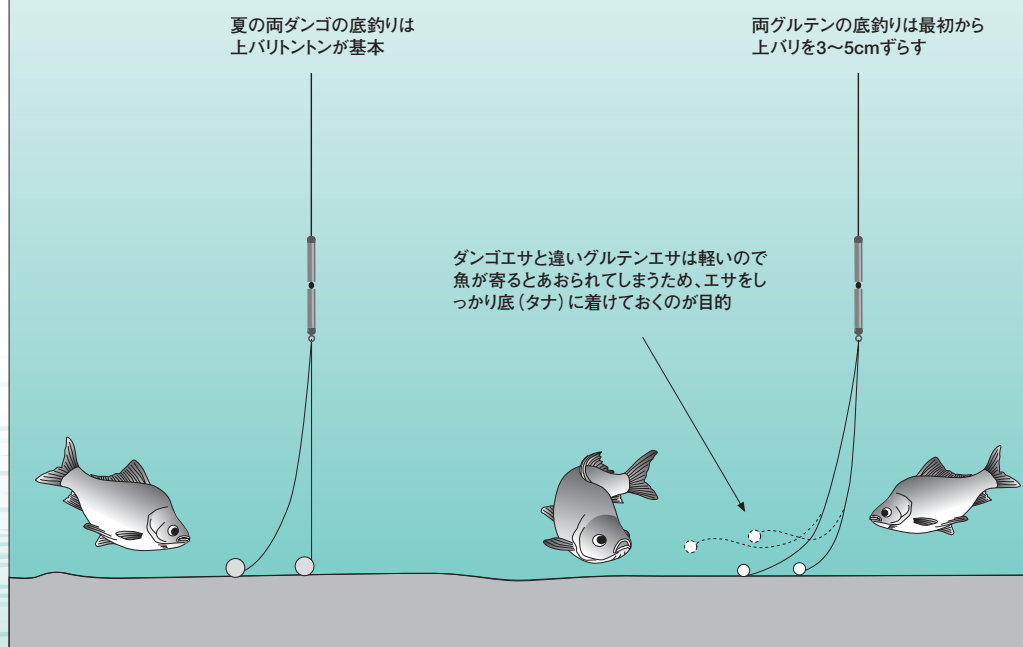
●使用する竿は15尺くらいまでが使いやすいでしょう。また、水温が下がり魚の活性が低下する季節は長めの竿が有効になります。

●ハリは3～5号を使い、水深の深いところではハリを大きくしてエサ持ちをよくします。ハリスの長さは、上バリ30cm、下バリ35cmにセットします。

●使用するウキは、両ダンゴの底釣りで使用したウキの大きさ(P24・表1)を参考にしてください。また、グルテンは軽いのでウキのなじみ幅が両ダンゴよりも少なくなります。



夏の両ダンゴの底釣りとの違い

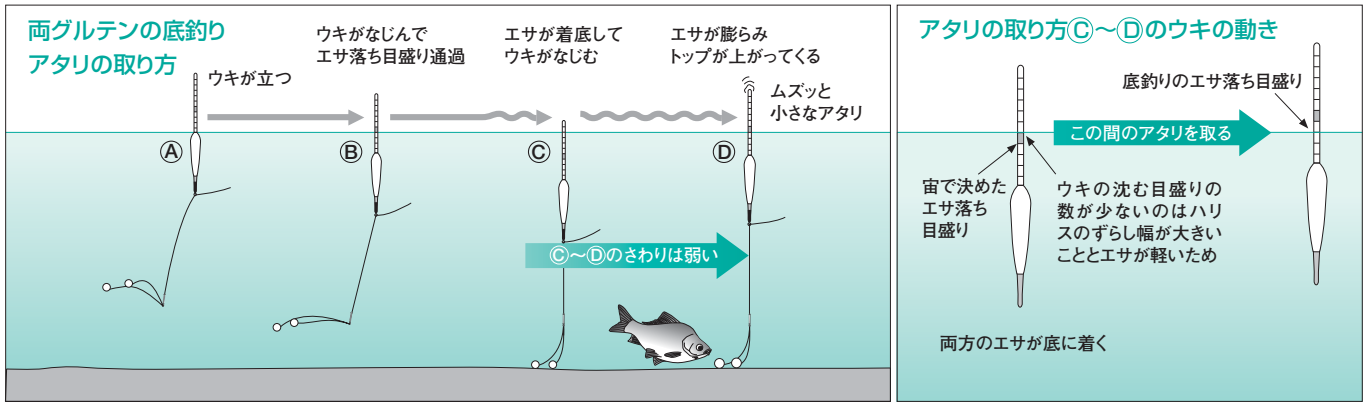


ONE POINT LESSON



底釣り用両グルテンブレンド例

- 食いの渋いとき
「いもグルテン」50cc＋
「α21」50cc＋水120cc
- 新べら狙い
「新べらグルテン底」100cc
＋水90cc



両グルテン・底釣りエサの作り方「いもグルテン」「グルテン5」



●いもグルテン

へら鮎の好むさつまいもを配合したグルテンエサで、重さがありウキがしっかりなじみ、へら鮎のウヅリを抑えます



① 50cc計量カップですり切り1カップのエサを袋の中で計り、小さめのエサポウルなどの容器に入れます



② 水を計量カップで正確に50cc計り加えます



③ 水を加えたらすばやくムラがないようにかき混ぜます



④ 均等に水がゆきわたったらエサを寄せておき3分ほど放置してできあがり



⑤ 完成したエサは端からつまむように取り丸めます



⑥ エサはハリが隠れるくらいの大きさにしましょう



●グルテン5

グルテン繊維が強く、エサ持ちのよいのが特徴です。しかも、適度にバラけるので寄せながら釣ることができます



① 「グルテン5」は使いきりで便利な分包入りのグルテンエサです



② 分包1袋を小さめのエサポウルなどの容器に入れます



③ 分包の空き袋は水の計量もできます。より正確に水の量を測りたい場合は計量カップを使うことをおすすめします。標準水量は100ccです



④ 水を加えたあとはすばやくムラがないようにかき混ぜ、エサを寄せておき3分ほど放置してできあがり



⑤ グルテンエサは持ちが非常によいのが特徴です。食いの渋いときや流れのあるところにも効果的なエサです